
機動戦士 ガンダムSoul 第1話 『失われた日常』

ガンダム魂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

機動戦士 ガンダムSoul 第1話 『失われた日常』

【Nコード】

N4143M

【作者名】

ガンダム魂

【あらすじ】

表面上は平和に見える・・・西暦2050年の日本。

しかし、実際は、常に「死」と隣り合わせの世界だった。

(前書き)

機動戦士ガンダムの世界観を生かしながら
僕なりに独特の世界を考えてみました。

第1話 『失われた日常』

『あの日から、僕の日常は壊れた・・・』

西暦2050年 東京

気だるい学校の授業を終え、

僕・・・小川マサキは、友達と街に来ていた。

『カラオケでも行こうぜ。』

『またかよ。』

『高校生になっただって言うのに

俺達あんま変わってないよな』

そんな何気ない会話をしながら

僕達は、交差点を渡ろうとしていた。

その時、車が猛スピードで

つつこんで来た。

獣が吼えるようなブレーキ音。

逃げる間もなく

僕達は車に轢かれた・・・はずだった。

気づいたら、世界は灰色に染まっていた。

人も街も、すべてが灰色になり動かない。

初めは、何が起こったのか解らなかった。

爆発音が聞こえ、僕は
はじき飛ばされた。

流れる血と傷の痛みでやっとわかった。

．．．これが現実だと言うことが。

『あれは．．．ガンダム？』

上空で戦闘を行っている二機の中の
緑色の機体は、子供の頃アニメで見た
‘ガンダム’
と言つ名のロボットによく似ていた。

戦闘は激しく続いていたが
やがて、緑色の機体が押し始めた。

形勢が不利になった黒い機体は
突然、逃げるように地上に降りてきて
僕の近くで身構えた。

戦闘は、さらに激しくなる．．．

『早く逃げないと。』 そう思っていた。

しかし、緑色の機体が一瞬、輝いたかと思うと

黒い機体は崩れ落ち、跡形もなく爆発した。

目の前に広がる炎。

死ぬ！？

そう思った瞬間、水色の機体が目の前に現れて爆風を防いでくれた。

あまりの出来事に呆然としていてと緑色の機体から、誰か降りて来た。

『なんだ？お前は。』

返答する間もなく、その男は銃を構え

『誰だか知らねえが、見られたからには死んでもらう。それが俺達のルールだ。』

そう言いながら、銃口を僕に向けた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4143m/>

機動戦士 ガンダムSoul 第1話 『失われた日常』

2010年10月9日05時46分発行